第82回日本内科学会講演会（1985年）

シンポジウム 老化と生体反応*

司会 京都大学医学部神経内科 亀山 正邦

司会 名古屋大学医学部老年科 葛谷 文男

司会者のことば

SYMPOSIUM ON CLINICAL AND PHYSICOCHEMICAL FEATURES OF AGING

Moderator: Masakuni KAMEYAMA, MD

Department of Neurology, Faculty of Medicine, Kyoto University

Moderator: Fumio KUZUYA, MD

Department of Geriatrics, Nagoya University, School of Medicine

日常の臨床において高令者を対象とする機会は
いちじるしく増えている。しかし、高令者の生体
反応には、若い人と比べてどのような差があるの
か、よく分かっていない。ことに、最近の研究面
の進歩、検査方法の開発によつて、過去のデータ
をそのままのみにすることは出来なくなつてい
る。

このシンポジウムでは、老年者における生体反
応の特徴が、それぞれ第一線の専門家によつて多
面的に検討される。

1. 老化のパラメーターを種々としてみた場合、
どのような社会的立場の人が、またどのような嗜
好をもつ人が、どのような面で若々しいと表現さ
れるのか（下方・柴田氏）。

2. 加齢とともに脳の神経伝達物質や神経ペプ
チドはどのように変るのか、老年者の痴呆状態で
それらはどうなっているのか、痴呆と加齢変化と
はどこが違うのか（中村・宮田氏）。

3. 感染症に際しての発熱などを中心とする生
体反応や、肺炎球菌ワクチン接種時の全身および

局所の反応は、加齢とともにどう変わるのか、そ
してそれはなぜか（島田氏）。

4. 老年者の免疫反応について、テタヌス・トキ
ソイドを注射した際に抗体産生の低下がみられる
が、その原因を詳細に検討して、免疫反応の基本
的問題にふれる（岸本氏）。

5. 下垂体、副腎を中心としたホルモン動態の加
齢変化について、何が衰え何が維持されるのか、
視床下部のドーパミン機構は加齢によつてどのよう
に変るのか（加藤氏）。

6. 老年者の骨の病態、ことに骨粗鬆症につい
て、Ca, PTH, 活性型ビタミンD, 尿中 γ -Gla, エ
ストロジェンなど、内分泌・代謝の面から具体的
に検討する（富田・高槻氏）。

追加発言として、老年者における自律神経機能
検査法の進歩とその意義づけ（井形氏）、老年者に
おける低Na血症の解釈と成因（折茂・井藤氏）。

以上、各方面から、最新の、しかも重要な知見
が紹介される。われわれは、そのような知識を総
合的に身につける必要がある。このシンポジウム
の成果は、従来にない新しい内科学の貴重な一頁
をなすものと確信される。

*本シンポジウムは1985年4月4日、名古屋市千種区吹上
2-6-3 名古屋市中企業振興会館にて行なわれた。